

東大まちづくり大学院 都市デザイン演習（まちづくり演習第2）  
2017 春

**パブリックライフ／パブリックスペース スタジオ**

—観察をベースとした公共空間の診断と改善の提案—

■担当

【主担当】中島直人

【副担当】鈴木俊治（芝浦工業大学／ハーツ環境デザイン）・高松誠治（スペースシンタクスジャパン）

■期間

2017年4月1日～5月13日

毎週土曜日3限～5限（13時～18時10分）全6回

■対象

まちづくり大学院修士1年

（グループは6名程度、合計3グループを予定）

■課題

「公共空間としての駅前広場のリノベーション」

駅前広場に関して、以下のような作業を行った上で、

1）現在の広場の空間形態や使われ方を観察調査によって把握する

2）現在の広場の空間形態や使われ方を規定する制度的要因（法制度や管理運営体制）や設計意図を把握する

これから目指すべき駅前広場のありかた（使われ方、空間像など）を設定し、そのありかたを実現するための制度的課題の解決、空間改善アイデアを提案する。

■狙い

- ・都市空間を生み出す制度的要因についての知見を深める。
- ・都市デザイン、都市計画の基礎としての都市空間と人間行動の関係性について知見を深める。
- ・都市空間における人間行動を記録、分析、表現するための観察に基づく基本的な技術や視点を身に着ける。
- ・具体的なまち、公共空間においてデータに基づいた課題の抽出、改善の提案という一連の計画・デザインの流れを体験する。
- ・近年、歩行者空間化されつつある駅前広場におけるアクティビティの可能性を検討する。

■対象地

- ・JR山手線の特定の駅の駅前広場およびその周辺の公共空間  
（具体的には演習の初回に提示する）

## ■スケジュール

—4月1日 中島

- ・課題説明
- ・レクチャー①「公共空間の再編 パブリックライフ研究の系譜と都市政策としての実践を中心として」(中島)
- ・班分け
- ・【現地見学】(現況の観察によって、空間、人間の行動の特徴、課題を大まかに把握する)

—4月8日 中島、鈴木、高松

- ・【現地見学】の成果共有とディスカッション(図面、ポストイットなどを使って、現地見学の成果を整理する)
- ・レクチャー②「公共空間の調査手法」(高松)
- ・レクチャー③「豊かなアクティビティを生む公共空間デザイン」(鈴木)
- ・【一次調査】の計画エスキス(班ごとに調査内容を固める)

—4月15日 中島、鈴木 ※集合は現地。調査を終え次第、大学へ

- ・【一次調査】の実施(空間と人間の行動の関係について考察するためのデータをとること)
- ・【一次調査】結果の解釈と議論

—4月22日 中島、鈴木、高松

- ・【中間発表】 【一次調査】の成果と提案の方向性について発表し、共有
- ・【二次調査】の計画エスキス(提案の方向性や提案を意識した追加調査のためのディスカッション)

—4月29日 祝日

—5月6日 中島 ※必ずしもこの日に実施しなくてもよい

- ・【二次調査】の実施
- ・グループごとの二次調査結果の解釈、改良、改善の提案の導出
- ・プレゼンテーションの準備

—~~5月7日~~ 5月13日 中島、鈴木、高松

- ・【最終発表】  
※要求成果物
  - ・公共空間の現況理解と改善のためのレポート  
⇒そのまま発表で使えるように、イラストレーターやパワーポイントを使ってレイアウトする。
- ・【まとめ】今後の駅前広場、公共空間のありかたについてのディスカッション

## ■成績評価

基本的に最終成果物の出来栄で判定するが、途中段階での参加度合も考慮に入れる。

## ■主な参考文献

- ・ヤン・ゲール+ピアギッテ・スヴァア(鈴木俊治・高松誠治・武田重昭・中島直人訳)(2016)『パブリックライフ学入門』、鹿島出版会
- ・プロジェクト・フォー・パブリックスペース(鈴木俊治他訳)、『オープンスペースを魅力的にする』、学芸出版社、2005年
- ・『賑わいづくり施策発見マニュアル』、国総研都市施設研究室、2014年